

たろう通信

こさい太郎（さきがけ・みなど）議員活動レポート

編集発行／さきがけ・みなど
〒107 港区南青山 6-13-4-605
TEL:5485/9111 FAX:5485/9100
共同編集／こさい太郎を育てる会

衆議院議員を選ぶ総選挙が近づいて参りました。政治改革の一環として行なわれた選挙制度改革により、小選挙区比例代表並立制という新しい制度の下で選挙が行なわれることとなります。それに伴い、政界再編の動きが急激に進みはじめています。つまり、自由民主党・新進党の二大勢力とは異なる、民主党という新しい政党が生まれようとしています。

結論を申し上げますと、私は民主党には参加せず、当面、ひきつづき「新党さきがけ」にとどまり活動していく決意しております。今回は、私の決断の理由をみなさまにお伝えいたしたいと思っております。

なお、予定しておりました記事は、次号以降に掲載させていただきますので、ご了承ください。

「新党さきがけ」にとどまる決意

私は、1年半前の港区議会議員選挙の際、新党さきがけの公認候補者としてたたかい、多くの区民のみなさんの信託を受け、当選させていただきました。私は、票や看板のために新党さきがけ公認で選挙をたたかった訳ではありません。新党さきがけの結党直後からその運営に関わり、理念と政策に共鳴し、その考え方を港区政にも注ぎ込んでいきたいという思いで活動して参りました。ご支援頂ける区民のみなさんに対する責任は大変重いものと考えています。

新党さきがけが解散・消滅する場合、理念や基本政策等の変更で党の方向性が変わりそれに賛同できない場合、著しく結党の精神から逸脱した場合、この三点のいずれかに該当する際は、みなさんにご報告・ご相談した上で、離党する決意をしたいと思います。しかしながら、今はその時ではありません。政界が数あわせの論理で流動化している今こそ、これまで新党さきがけが掲げてきた旗（理念や政策）を鮮明にすべきだと考えます。

新党さきがけは結党から3年余りの間、細川・村山・橋本の各政権の一翼として行動して参りました（羽田政権の時は除く）。これは、与党になってその利権を得たいがための行動でなく、少数政党である新党さきがけの目指すものを少しでも実現したいとの思いから、結果としての与党参加でした。ですから、新党さきがけはそれぞれの政権に参加する際、政策合意をまとめました。そして、連立政権は特命政権であるべきとの判断から、細川政権の時は政治改革政権、村山政権は行政改革政権、橋本内閣は経済改革政権とそれぞれ位置づけ、理念的には新党さきがけ主導で連立政権が運営されてきました。その中で、行政改革の一端として特殊法人の改革を進め、また、政治機能の強化として政治家による総理大臣補佐官制度を実現しました。これらは道半ばであり不断の改革への努力が必要ですが、道筋をつけたのは、新党さきがけのメンバーそれぞれの情熱と見識でした。今でこそ選挙が近づき各党によって行政改革が声高に叫ばれていますが、これまで不断に取り組んできたのは我々であるとの自負があります。そこで、忘れずにみなさんにお伝えしなければならないのが、薬害エイズ問題に対する取り組みです。

薬害エイズ発生の当事者の責任を問う裁判にまで発展しているこの問題が急展開したきっかけは、何といたっても菅直人厚生大臣の誕生です。「国民に選ばれた大臣である」という菅直人氏の信念と決断、真相究明への情熱によって、これまで先送りにされてきた薬害エイズ問題は、解決への第一歩を踏み出すことができました。今回、みなさんにお伝えしたいことは、菅直人氏の実力は当然評価されるべ

きものですが、その裏側には新党さきがけのチームプレーが存在していたということです。枝野幸男氏・荒井聰氏をはじめとする若手議員が真相究明への努力を続け下地を作りました。さらに、さきがけ幹部が中心になり、社会党枠と目されていた厚生大臣のポストをもぎ取ってきたのです。つまり、菅直人氏がいなければできなかった真相究明ですが、別の視点では新党さきがけのメンバーによって支えられていたのも事実であります。

このように、薬害エイズ問題、行政改革、規制緩和、さらには住専問題も含めて、歴代の内閣、政治家たちが懸案事項としながら先送りしてきた課題を、充分でない部分はあるにせよ、手がけてきた新党さきがけの役割は重要だと自負しています。少数ではありますが、政治は数だけではないということを実証しているのではないのでしょうか。私は、この「さきがけの旗」を掲げ続けることが必要であると感じています。

もちろん、ご指摘を受ける問題点は謙虚に反省をしながら、新党さきがけとしてのこの3年余りの行動を、次の選挙で有権者のみなさんに審判して頂くことは、公党としての責任であります。永田町の数あわせで選挙直前にばたばたするのではなく、新党さきがけとして選挙を戦うことによって、ご批判を受け、これまでの成果を訴え、さらに21世紀に向けての日本の有るべき姿を訴えべきと考えます。田中秀征氏は私たちに「魁然として動かず」という言葉を教えて下さいました。ふわふわとせず、信念に基づき行動する決意です。

今、民主党には参加できない

民主党を一言で表わすならば「選挙互助団体」です。また、次期総選挙で自民党・新進党に挟まれ、議席確保が危ぶまれる現職国会議員の集合体ともいえるでしょう。この状況は、一昨年前に結成された新進党によく似ています。新進党は、巨大宗教団体の集票力を背景に複数の勢力が結合しました。民主党は「巨大宗教団体の集票力」の部分「鳩山由紀夫氏の好感度・菅直人氏の実績・労働組合のリアルパワーや集票力」に変わっているだけなのです。つまり、民主党は議席を得ることを目的とする方々の集団ということです（勿論、全員とはいいませんが・・・）。

政治は本来、将来へ向けてのヴィジョンを創造し、具体化し、そしてその実現を目指すことであります。議席を得ることはその手段であり、目的であってはならないと思うのです。言い換えれば、「政治家になって何をするのか」が重要であるということです。

さらに、政党は、同じ志を持つ人々の集合体であるべきです。現実の政治の中では、政党の所属人数が一定の力になる訳ですが、数さえ集まればなんでもよいという論理に私は組みできません。やはり、政治理念・政策を市民のみなさんにお示しし、または議論しながら、一つの旗の下に集まるのが政党ではないのでしょうか。このことは政党の存立の前提条件であると思っております。

民主党にはその前提条件が欠如していると思えます。これまでの経緯の中で、基本理念や基本政策は発表されていますが、結集されている方々を見ると、全てのメンバーが必ずしも理念や政策に賛同し、実現を目指しているのか疑問を抱かざるを得ません。

例えば、旧社会党を支援していた労働組合が全面支援を約束している点。労働組合は、これまで社会党を通じて、政治に対する発言力や影響力を担保してきました。もちろん、労働者の権利を守る、また、自民党政治のチェック機構という意味において一定の役割を果たしてきたのも事実であります。しかしながら、長い期間、構造が変化しなかったために既得権を有する組織になっていることも否定できません。つまり、選挙に関与することによって、政治家以上の影響力を有してしまっているということです。組織内候補という、労働組合丸抱えの政治家も民主党に参加しているのです。さらに、民主党を支援する労働組合の中には官公庁系の組合があります。これまでと同じように組織的な選挙支援をうけるとすれば、今、日本の抱える最も大きな課題である「徹底した行財政改革」を推進でき

るのか、極めて疑問です。また、新しい市民政治を達成することも困難ではないでしょうか。また、旧社会党系議員が参加している中で、自己責任原則に基づく自立した市民社会の構築や規制緩和等による自由な市場経済主義の確立など、新しい日本の方向性は見出せないと思います。これまで述べたように、現時点で民主党は「選挙」のためのグループとしか思えない訳であります。さらに、今後も、新しい価値観を創造すること、また、21世紀の日本の方向性を示すことは、現状の寄せ集めの形では不可能であるとも感じています。ただし、民主党には、新党さきがけから同じ志を持つ仲間、先輩たちも何名か参加しています。将来、今回の民主党や新進党のような形ではなく、政治理念・政策を軸とする真の再編が必ず起こると思いますし、起こさねばなりません。その時には、同じ旗の下で行動できる方がいると思っています。

将来のあるべき姿（さきがけの地方議員として）

民主党には地方議員も参加するようです。しかし、21世紀に向けて新しい政党を結成する際に重要なことの一つには、国会議員の傘下の地方議員を持ち、そのメンバーをもって地方支部を形成するというピラミッド型、あるいは親分・子分型の政党のあり方そのものを変革することだと考えています。中央集権体制と呼応する形で会派構成されている現在の地方議会の在り方は、真の地方分権を進めるための弊害も生み出してきています。実際、私の所属する港区議会でも、改革精神をお持ちの方、私と同じような港区の将来像をお持ちの方は、会派の垣根を越えていらっしゃいます。しかし、ナショナルパーティー（中央の政党）に呼応する形の会派構成があるために、連携をとることはなかなか難しいのです。地域には地域の論理、または課題が存在しているのであり、このままの形ではいけないと考えています。

私の考える理想像は二つあります。

一つには、その地域の論理に従い独自のローカルパーティー（地域の党）があり、国政に対しては所属メンバーがそれぞれの信念に従い行動するという地域政党完全独立論です。これは、地方分権が進むことが前提ですが、地域のことは地域の議員が、中央のことは国会議員が、という役割分担を明確にすべきという、地方自治の本旨に添う形と考えています。

もう一つは、ローカルパーティーが国会議員の選挙のたび毎に、最も考え方の近い政党を政策協定を締結し支援するという形です。ローカルパーティーは、市民に最も近い地方議員が主体ですので、市民の声が反映されやすいと共に、永田町の論理で動いていた国政が、市民のコントロールが効く健全な形に近づくのではないのでしょうか。

私は、この二つの形が併存していくことが望ましいと思います。さらには、このような地方政治の形が、来たるべき地方分権の受け皿になりうるべきです。

これは私個人の考えですが、さきがけの地方支部も将来的には、前述の2番目のような形に移行していくべきではないかと思っています。（当然、地方分権が進まない限りにおいては現実的には困難ですが・・・）また、ナショナルパーティーの支援組織はピラミッド型の政治の世界と別の部分で、市民と直結すべきとも考えています。

私は、港区議会議員として区民のみなさんに選ばれている訳ですから、「住んでよかったと思えるまち」に港区がなるべく努力をすることが第一であります。その一環としての理想形を追求していきたいと思っています。

是非とも、ご支援をよろしくお願い申し上げます。また、いつもの葉書を同封いたします。今回の紙面の内容、また身近のことでも結構ですので、ご意見を頂ければ幸いです。今回は、区議会議員としての活動を掲載せず、申し訳ございませんでした。最後に重ねてお詫び申し上げます。

新党さきがけの政治理念

憲法の尊重

私たちは、日本国憲法を尊重する。憲法がわが国の平和と繁栄に寄与してきたことを高く評価するとともに、時代の要請に応じた見直しの努力も傾け、憲法の理念の積極的な展開を図る。

われわれは、現行憲法にも不備があることは認めるが、現在、直ちに改正作業に着手すべき必要性を感じない。むしろ、内外の情勢は、日本国憲法の理念が今こそ積極的に、世界に向かって展開される機会を迎えていると認識する。

非軍事的貢献

私たちは、再び侵略戦争を繰り返さない固い決意を確認し、政治的軍事的大国主義を目指すことなく、世界の平和と繁栄に貢献する。

われわれは、わが国が過去の歴史の一時期において加害者であったことを深く認識し、その反省に立って、軍事大国はもちろん、いかなる大国主義、覇権主義も目指さないことを確認する。また、世界の平和と繁栄のために、経済協力、技術支援、知的支援、人道的支援など、特に、非軍事面において国際社会に積極的に貢献する。

環境重視

地球環境は深刻な危機に直面している。私たちは、美しい日本列島、美しい地球を将来世代に継承するため、内外政策の展開に当たっては、より積極的な役割を果たす。

災害に強い国土環境を整えることは最優先の課題である。特に地震に強い都市づくり、危機管理体制の強化にまず積極的な役割を果たしていく。また、われわれは、いわゆる大量生産、大量消費、大量廃棄の経済社会を見直し、資源、エネルギー、環境などの有限性を考慮し、新しい循環型社会の構築に努め、質の高い簡素な生活用式を追求する。

民権政治

私たちは、わが国の文化と伝統の拠り所である皇室を尊重するとともに、いかなる全体主義の進出も許さず、政治の抜本的改革を実現して健全な議会政治の確立を目指す。

われわれは、政策決定が行政主導の「官権政治」の流れを憂慮し、政治や行政における、民主性、公開性、透明性を尊重する「民権政治」の確立に努め、行政に対する政治の指導性を発揮する。そのため、多様な市民団体と積極的に交流、連携し、「民」の側の質的向上と強化を図るとともに、何よりも、政治家の自己改革に努める。

質実国家

私たちは、新しい時代に臨んで、自立と責任を時代精神に据え、社会的公正が貫かれた質の高い実のある国家「質実国家」を目指す。

われわれは、外交においても内政においても、虚飾や虚勢を排し、背伸びをしない内容本位の生き方を貫く国づくりを目指す。

* 基本政策は文量が多いため掲載することができません。ご希望の方がいらっしゃいましたらご連絡下さい。こちらよりお届けいたします。